

安全安心な出産のために

近年、全国的な産婦人科医師数の減少などに伴い、分娩施設が減少しています。このため、近くに出産できる施設が無い地域が増えることや、限られた分娩施設に妊婦さんが集中することで医師の負担増加などが懸念されており、地域全体で出産をサポートする体制の整備が重要な課題となっています。

そこで、山形県では、診療所等と総合病院の役割分担と連携を進めることで、妊婦さんの利便性及び安心感の向上と医師の負担軽減を図る仕組みである「産科セミオープンシステム」を平成31年1月(2019年1月)から、村山地域で始めました。

産科セミオープンシステムとは・・・



対象となる方

総合病院で出産したいが

- 「妊婦健診はできるだけ職場や自宅の近くがいい(通院の負担を減らしたい)」
- 「妊婦健診の待ち時間を短縮したい」
- 「平日は働いているので、妊婦健診は土曜日に受診したい」

などの御希望をお持ちの方

■33週頃までは、お近くの診療所等で妊婦健診



- 自宅や職場から近い
- 待ち時間が比較的短い
- 土曜日に受診できる場所が多い。



共通診療ノートで施設間での連携を強化

■34週～産後1か月は、出産を希望する総合病院



- 20週、30週は胎児スクリーニング等のため、出産予定の総合病院を受診
- 34週以前でも、夜間・休日などの緊急時は出産予定の総合病院が対応

(注)総合病院以外での出産を妨げるものではありません。

◆このシステムを利用するには、システムに参加している下記医療機関で、「共通診療ノート」を受け取ってください。詳しくは、各医療機関に御相談ください。

【参加医療機関】(五十音順) ※2019.4月時点

■セミオープンシステムにおける分娩施設

山形県立中央病院・山形済生病院・山形市立病院済生館・山形大学医学部附属病院

■妊婦健診施設

あかねヶ丘高橋レディースクリニック・大沼産婦人科医院・北村山公立病院・さとこ女性クリニック
セントラルクリニック・原田医院・真理子レディースクリニック・レディースクリニック高山

■妊婦健診への協力施設

※以下の施設では分娩を取り扱っていますが、セミオープンシステム利用者の身近な健診施設としてご利用いただくことができます。

川越医院・菅クリニック・国井クリニック・天童市民病院

山形県

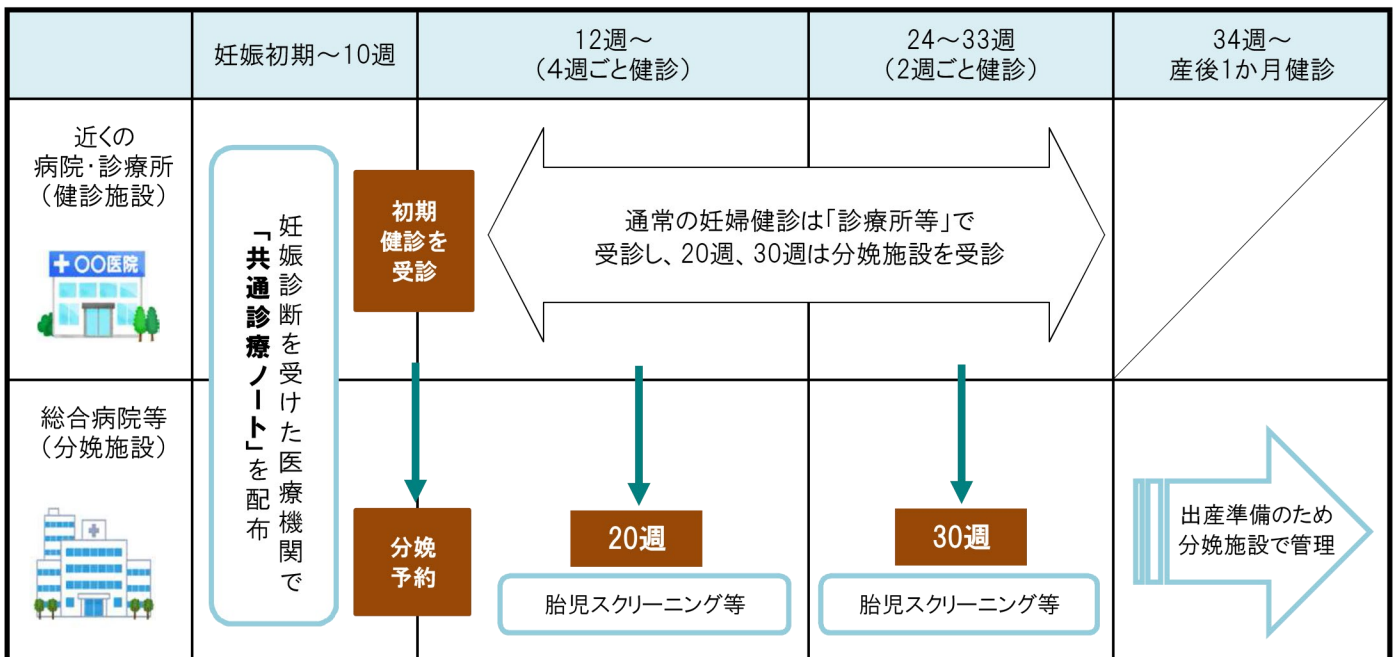


産科セミオープンシステムについて

産科セミオープンシステム利用の流れ


- ① 妊娠診断を受けた医療機関で、当該システムの利用を希望する妊婦に「共通診療ノート」を配布。
- ② 妊婦は、「共通診療ノート」を持参し、妊婦健診初期(10～12週頃)に、近くの診療所等を受診。
- ③ 以降、33週頃までは近くの診療所等で妊婦健診を受診するが、20週及び30週の2回は分娩施設を受診。
※この間、「共通診療ノート」で情報を共有し、夜間休日等の緊急時には、分娩施設が対応。
- ④ 34週以降は、出産準備のため分娩施設で妊婦健診を行う。

<利用イメージ>



※システム利用者が、途中でハイリスクと診断された場合、以後の管理は分娩施設で行う。

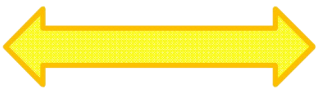

産科セミオープンシステム導入のメリット


**妊婦健診は
お近くの診療所等で** 

- 自宅や職場から近い
- 待ち時間が短い
- 土曜日も診察を行うことが多い

通院に係る負担の軽減
利便性の向上

それぞれの医療機関のメリットを活かした連携

**出産は総合病院等の
分娩取扱施設で** 

- 異常がある場合は、優先的に出産予定の病院が対応
- 夜間・休日など、緊急時への対応が可能

安全安心な出産環境の提供